

ISAPH

アイサップ
ニュースレター

第20号

News Letter

2015年3月31日発行



写真: ラオス 健康教育に熱心に耳をかたむける子どもたち

ISAPHはラオスとマラウイの母親と
子どもたちの保健の向上を支援しています

NPO International Support and Partnership for Health





「子どもにやさしい地域保健プロジェクト」 中間レビューを実施して

ISAPH 事務局 齋藤 智子

2013年5月より開始したマラウイ「子どもにやさしい地域保健プロジェクト」は早いもので既に1年半が過ぎ、折り返し地点にきました。中間レビューは必ず行わなければならないものではありませんが、プロジェクトの中間地点でどの程度の活動成果が出ていて、問題点は何か、今後終了時に向けどういった活動をしていったらいいのか軌道修正する上でも重要な活動です。その中間レビューを2014年12月18日にマラウイの首都リロングウェにて実施しました。今回はその内容について報告いたします。

プロジェクトは栄養不良児の改善を目指しています。対象地域では食習慣による食物摂取量の不足や栄養バランスに対する母親の認識不足などから、他の地域と同様に長期の栄養不良である低身長の子どもの多い状況です。プロジェクトは地域のボランティアや母親グループのリーダーたち、そして住民の健康を守るため村レベルで活動する政府の保健要員である健康監視員とともに活動しています。研修を通して栄養に関する知識を学んでもらい、少しでも子どもの栄養状態が良くなるよう、その知識を彼らが母親に教えています。また、栄養状態は毎月、村で実施している成長モニタリングによる身体計測で把握しています。健康は病気になったときにその大切さを実感するように、効果が目に見えにくいこのような保健活動は短期間で成果を出す難しさがあります。

中間レビューには保健省、県保健局のカウンターパート、JICAマラウイの当プロジェクト担当者、プロジェクト職員、日本からプロジェクトマネジャー、ISAPH事務局長、聖マリア病院広報担当部長の計16



中間レビューの様子

名が参加しました。中間レビューでは活動で把握した栄養不良児の割合、成長モニタリング参加率、ベースライン調査結果、活動実施状況（母親グループやボランティアによる活動、健康監視員やボランティアへの研修、活動村の拡大活動）、問題点（健康監視員が村在住でないことによる弊害、健康監視員の県保健局への報告遅延、村での子どもの診療に必要な薬剤不足、地域での補助食による栄養不良児への対策が十分機能していないこと、健康監視員やボランティアへ日当を支払わないことに伴う問題）、今後の活動方針（身の回りにある食材で子どもたちが必要な栄養を日常的に摂取する方法の確立、急性栄養不良児に対する栄養補給の方法、健康監視員との協力体制の強化、村のボランティアの育成）を発表し、その後、関係者間で問題点について話し合いを行いました。話し合いの相手は日頃から活動を共にしてきた関係者のため和気あいあいとした雰囲気の中、活発な意見交換ができました。特に日当問題については白熱したものとなりました。具体的にはボランティアの活動を評価してそれに応じて報奨する（活動に必要なものを提供）、モチベーションを高める方法として県保健局長や役職が高い人との会議に参加してもらうなどでした。インセンティブの問題は容易に解決できるものではありませんが、カウンターパートと問題点及び解決策を共有できたことは一歩前進と思われます。今後もカウンターパートとは密に接触を図り、最終ゴールを目指して活動を共に進めていきたいと思っています。



参加者全員でにこやかに記念撮影

停電でも明るい！ マラウィアンパワー

ISAPH マラウイ 岡本 愛

「マゲシ ヤジマ！（停電だね!）」「スーズゴ（困ったね）」。

1月初旬、降り続いた豪雨によりマラウイ中部南部の各地で深刻な洪水被害が発生しました。幸いプロジェクト活動地域である北部は例年と変わらない程の降雨で大規模な被害はありませんでした。しかし、国内の電力のほとんどを賄う水力発電所が豪雨の影響で一部停止したため、毎日長時間にわたる停電が発生しISAPHが事務所を構える町では「マゲシ ヤジマ!」「スーズゴ」という会話が毎日のように繰り返されました。とはいっても、マラウイの人たちは普段からたびたび停電が起こるため笑いながらこの会話をしているとも変わらず生活しています。電気がなければろうそくをつけ、火をおこして料理をします。火もおこせないのご飯が作れず、パソコンや携帯の充電もできず焦っているのは外国人の私だけでした。マラウイの人の生活力と停電を笑って受け止める大らかな心に感じます。

マラウイプロジェクトは昨年12月に中間レビューを終え、プロジェクト地域での活動も活発化しています。パイロット村として選ばれた8村では、①ボランティア選出、母親グループの形成、②ボランティアを対象に栄養に関する研修の実施、③母親グループごとにボランティアによる栄養教育の実施、グループのメンバー同士で月1回の身体測定出席促進、④ボランティアを対象に啓発活動方法（歌・劇など）に関する研修の実施、⑤ボランティアが村人を対象に保健啓発活動（栄養や衛生に関する歌やダンスをおりまぜた劇など）を実施、⑥ボランティアや母親グループの活動やスキ



研修で栄養バランスの取れた離乳食の作り方を勉強中

ルの評価、⑦評価の結果を元に補足すべき知識やスキルの向上を図る追加研修を実施という一連の活動により、ボランティアを中心に村で住民同士が互いに学びあい、子どもの健やかな成長を見守り、支えあえる環境ができあがっていくことを目指しています。

また、これらの活動が順調に進んでいる村にはもうひとつ新たな活動が加わります。近隣の村の住民を対象に母親グループの活動や保健啓発活動を発表する伝達講習会です。ボランティアや母親グループのメンバーたちは近隣の村に出向き、自分たちが村や母親グループ内で行っている健康教育の内容や栄養バランスのとれた離乳食の作り方などを紹介します。そこで興味を持ちプロジェクト活動を自分たちの村でもやりたいと手があがれば、その村でも活動を開始します。この活動によりパイロット村8村以外の村にも徐々に活動を広げていっています。

マラウイで村の人たちと共に活動していると彼らのエネルギーに圧倒されます。保健啓発活動として劇をする際もほんの数十分で内容や役を決め、セリフはほとんどアドリブでとてもユーモアのある楽しい劇を見させてくれます。歌もダンスも急に誰かが歌いだし、踊りだし、周りの人がそれに乗っかります。絶対日本人にはできないなと思います。停電でも明るい、歌や踊りが大好きなユーモアあふれる彼らが秘めたパワーを最大限に引き出す活動をこれからも地道に続けていくことができればよいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



ボランティアが伝達講習会にて歌・劇を披露

NGO インターン・プログラムを終えて

ISAPH マラウイ 片岡 えりか

みなさん、こんにちは。私は昨年6月より、外務省主催NGO インターン・プログラムの下でISAPH マラウイ事務所にて業務に従事しておりましたが、3月のプログラム終了に合わせ、この度日本に一時帰国いたしました。そこでこの場をお借りして、10カ月間のインターンシップについてご報告いたします。

NGO インターン・プログラムは、NGO への就職を希望する若手人材の育成と、NGO による国際協力を拡充することを目指し、インターンの育成にかかる経費の一部を外務省が支給するというもので、インターン期間中には所属団体の海外事業地での業務も行うこととされています。私の場合には、まず6月から8月上旬まで福岡県の聖マリア病院で国内研修を受けました。この研修は、病院経営と財務管理をテーマとしたもので、アジアやアフリカなど9か国からJICAの研修生が参加していました。各分野の専門知識や経験を持った講師から受ける講義や実地見学はもちろんのこと、文化や習慣が異なる研修生たちと寝食を共にしながら生活することができ、大変興味深く学びの多い2か月間を過ごすことができました。

その後8月半ばからはISAPH マラウイ事務所に移り、サブプロジェクトマネジャーの補佐として、フィールドでの活動とプロジェクトの運営管理全般について学びました。プロジェクトを運営するためには、お金やモノの管理、そして人の管理が欠かせません。現在プロジェクトでは6名のマラウイ人スタッフを雇用していますので、彼らを雇用する上での諸々の手続きや、事務所を運営するための管理業務、関係者との連絡調整など、様々な業務が必要になります。それらの全体像を理解するまでには少し時間がかかりましたが、現



ボランティアとともに子どもの身体計測を実施

地事務所の職員や日本の事務局の方々からその都度アドバイスを受け、様々な業務を経験することができました。こうして充実したインターンシップを経験させていただき、関係者の皆様には心から感謝しております。

今後は3月に東京にてインターン・プログラムの成果報告会に出席し、その後再びマラウイに戻り、今度はプロジェクト調整員としてプロジェクトに関らせていただく予定です。来年度は3カ年計画の子どもの栄養改善プロジェクトの最終年にあたります。これまで実施してきた活動をより強化し、プロジェクト終了後にも地域で根付くものとなるよう、現地職員やボランティアなど皆で力を合わせ頑張りたいと思います。また、現地の様子やプロジェクトの活動についても、多くの方々に発信していければと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



研修を受ける母親グループリーダーと現地職員



聖マリア病院での研修



寄生虫感染を減らすために ラオスで寄生虫セミナーを開催

ISAPH ラオス 赤羽 由香

ラオス母子保健プロジェクトにおける寄生虫対策プロジェクトの一環で、2014年11月26～28日の3日間、名古屋公衆医学研究所との共催による寄生虫セミナーを開催しました。名古屋公衆医学研究所は寄生虫卵検査法である「加藤氏セロファン厚層塗抹法」(以下、「加藤氏法」)を開発した加藤博士が設立した研究所です。海外医療技術協力事業を行っており、以前にもラオスで寄生虫卵検査の技術指導の実績があります。またISAPHの活動地域も視察されたことがあり、そこでラオスでは依然、寄生虫感染が高率であることを目の当たりにし、感染予防も含めた寄生虫基礎知識の普及及び寄生虫卵検査法の指導の必要性を認識されたと共に、私共の活動に共感してくださり「寄生虫健康教育と寄生虫卵検査セミナー」を開催することになりました。

今回の寄生虫セミナーは、カムアン県内10郡の郡保健局職員及び郡病院臨床検査技師を対象にしたもので、地域住民の健康増進・疾病予防のため、感染予防も含めた寄生虫感染についての健康教育と寄生虫卵検査法の基本的な知識と技術を身につけることを目的としました。1日目は寄生虫感染についての講義と寄生虫卵検査の実演を行いました。講義ではラオスと日本における寄生虫感染について、主要な寄生虫の生活環などの説明を行いました。その後、寄生虫卵検査法の効率的、経済的な検査法である「加藤氏法」を紹介すると共に「Kato-Katz法」との比較も講義しました。「Kato-Katz法」とは「加藤氏法」にブラジルのKatzらが定量的な検査を行うためにいくつかの方法を加えた検査方法です。実際に寄生虫卵の症例スライドを見せながらの説明でしたので、参加者は理解しやすかったようです。また、翌日からの寄生虫卵検査実習に備

えて、疑似便を用いた検査方法の実演を行いました。皆、真剣に手技の説明を聞いていました。2、3日目は各郡病院の臨床検査技師を対象に寄生虫卵検査実習を行いました。便検体はISAPHの活動地域の1つであるシーブンフアン地区ブンフアナー村の住民の皆様にご提供いただきました。まず「加藤氏法」を用いて実習を行い、次いで「Kato-Katz法」でも実習を行いました。参加者は経験年数や検査レベルも異なり、「加藤氏法」や「Kato-Katz法」を経験したことのある技師、あるいはそれらの経験がない技師もいましたが、参加者は全員臨床検査技師であるので慣れており、技術の呑み込みは早いように感じました。

3日間の寄生虫セミナーを通して参加者は熱心に取り組む、実習では検査技術に差はありましたが、全体として良い検査成績でした。今回の研修対象者である郡保健局職員及び郡病院臨床検査技師にとっては、普段このような研修会を受ける機会に恵まれないので、知識・技術の向上につながり貴重な経験になったのではないかと思います。そして、経済的事情から検査物品などを整えることは難しい施設もあると思いますが、ぜひ他の職員にもこのセミナーで学んだことを普及し広めてもらいたいです。

最後に、今回寄生虫セミナーを開催していただいた名古屋公衆医学研究所の皆様にご心から感謝申し上げます。



寄生虫卵検査用標本作成の様子



寄生虫感染・検査方法についての講義



熱心に鏡検を行う参加者たち

国際協力フェスタ 「地球市民どんたく2014」に参加して

ISAPH事務局 磯 東一郎

2014年11月15日、16日に福岡天神アクロスにて国際協力フェスタ「地球市民どんたく2014」が開催され、JICA九州国際センターをはじめ、福岡県内において国際協力で活躍する19団体が参加しました。ISAPHも聖マリア病院との合同で今回が2回目の参加となります。

私たちのブースへの来訪者は昨年同様2日間で250名ほどありました。ブース内に海外での活動写真や教育教材を展示し、ISAPHと聖マリア病院によるラオスとマラウイでの国際協力活動を説明することが主な活動でした。マラウイを知っている人はあまりなく、珍しい国での乳幼児の栄養問題やその改善に向けてのアプローチなどの話を熱心に聞いてくださった方が意外に多く、よい広報の機会となりました。残念ながら国際協力に携わっている関係者以外にISAPHを知っている方はほとんどおられませんでした。聖マリア病院が立ち上げたNPO法人であることを説明すると、聖マリア病院を知っているという方が多数いらっしゃいました。

今回はブースでのプロジェクト説明に加え、国際協力とISAPHの活動についてお話するワークショップも実施しました。テーマは「あなたもできる国際協力、まず小さな一歩から」で、ISAPHの広報と一般市民への国際協力に対する啓発活動を目的としたものです。なぜ国際協力が必要であるかということクイズ形式で参加者に説明し、続いてISAPHの活動説明を行い、最後に国際協力の経験のない人がどのような形で国際協力に参加できるかということ、具体例を挙げながらお話ししました。誰でもできる支援活動としては、一般的な募金や国際協力を行っているNPOのホームページなどで活動内容を確認し寄付などの支援を行う方法に加え、ペットボトルのキャップ収集により国際協力活動を実践しているiサイクルの活動に携わっている関係者の皆さんから話をしてもらう場を設けました。iサイクルの活動紹介では、坂西代表から活動の主旨や具体的な活動内容をご説明いただいた他、実際に参加している高校生や大学生からの参加した動機や活動での感想、更に支援している団体の活動現場の視察の感想もありました。参加者の真剣な眼差しがとても印象的でした。キャップの収集活動によって、ラオスでビタミンB1欠乏症から子どもの命が守られていることに強い関心を持たれたようです。

ワークショップの開始が開場から間もない時間であっ



ワークショップの参加者にiサイクルの説明をする坂西代表



今年もたくさんの方がISAPHのブースを訪れてくださいました

ため、参加者は延べ51名と多くはありませんでしたが、初日に参加した方がガールスカウトの指導員や小中学生ら総勢10名を連れ2日目にも参加してくださいました。初日に参加し、ぜひ仲間や子どもたちにも聞かせたいと思ってくださったそうです。終了後、福岡の大学生グループから、福岡市からもiサイクルに参加しISAPHの支援に参加することが可能かといった質問もあり、「あなたもできる国際協力、まず小さな一歩から」を実感してくれたことを嬉しく思いました。

最後に今回の参加にあたり、地球市民どんたくの実行委員会ははじめ聖マリア病院の関係者の皆様のご協力に心からお礼を申し上げます。

ラオス事務所赴任にあたって

ISAPH ラオス 武繁 政昭

2014年12月にISAPHラオス事務所に赴任しました武繁政昭です。大学卒業後、開発コンサルタントなど民間の企業で経理・財務スタッフとして勤務し、40歳以降はNGOの仕事に携わってきました。今まで勤務したNGOでは、日本の本部事務所での経理・労務、ケニア国ナイロビ市で難民支援とスラム地域でのコミュニティ開発業務の調整員、スーダン国ハルツーム市郊外の医療支援、国立のハルツーム大学図書館での交流事業を行っている団体の副代表業務に携わってきました。今までのNGOでは、組織強化、アカンタビリティーの構築といった、組織の運営・管理や、活動を一般の人にとどのように分かりやすく伝えるか、といったことをテーマに活動してきました。

ISAPHラオス事務所では、経理・労務・総務といった事務所の運営・管理の他、カウンターパートと新規MOU締結に向けた折衝などを担当します。これからは、どのようにしたら現地の人々の暮らしが豊かになるか、



コンロー洞窟（ラオス）にて

といったことを新たなテーマに掲げていきたいと思っています。ラオスで活動するにあたって、言葉の問題など課題がありますが、事務所の現地スタッフからラオス語の勉強を始めました。

これからラオス事務所の日本人・ラオス人スタッフと共に、ISAPHの活動をさらに盛り上げていけるよう頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

公益信託アフリカ支援基金の 平成26年度助成団体に採択されました

ISAPH事務局

現在ISAPHはマラウイ北部のムジンバ県において、乳幼児の栄養改善を目的としたJICA草の根技術協力事業を実施しています。しかし、乳幼児が適切に栄養を摂取しても、下痢や肺炎などの感染症にかかることにより栄養状態が悪化し、子どもの健康状態に悪影響を及ぼすことも少なくありません。そこで、栄養状態の改善と感染症予防のためのワクチン接種体制の強化を同時に行うことによる乳幼児の総合的な健康増進を目指して助成金を申請し、採択されました。

金額：1,392,000円

目的：ワクチン管理用の冷蔵庫の設置による
予防接種実施体制の強化



iサイクル



寄付をいただきました

ISAPH事務局

2014年6月～12月までのペットボトル収益として、iサイクル様より50,828円(キャップ1,016,568個分)の寄付をいただきました。

ONE by ONE事務局様より、130,151円の寄付をいただきました。
ありがとうございました。

最近のできごと

2014年10月～2015年1月

- 10月9日～11日 【マラウイ】 エピングウェニ、カウエテカ村で健康教育研修を実施
- 10月13日～17日 【ラオス】 聖マリア病院国際事業部の浦部大策氏と杉本孝生氏をラオスに派遣
- 10月14日 【ラオス】 次期活動対象地区選定のため、他郡の情報収集を実施
- 10月27日～12月23日 【マラウイ】 ISAPH事務局の齋藤をマラウイに派遣
- 10月28日～30日 【ラオス】 MOU3終了時調査を実施（カシ地区）
- 10月29日 ISAPH事務局の磯が東京女子医科大学で講義
- 11月3日～7日 【ラオス】 MOU3終了時調査を実施（シーブンファン地区）
- 11月4日 【マラウイ】 ムジング、チボプリラ村のボランティアがジュベカ・ムトンガ村で伝達講習会を実施
- 11月5日 ISAPH事務局の磯が東京女子医科大学で講義
- 11月15日・16日 地球市民どんたく2014（福岡）に参加
- 11月17日～21日 【マラウイ】 パウロスンタラ、ジョセニ・ンコマ村で栄養研修を実施
- 11月20日 【ラオス】 カシ地区ヘルスセンター建設着工
- 11月25日 【マラウイ】 ムジング、チボプリラ村のボランティアがチビサ・ムトンガ村で伝達講習会を実施
- 11月26日～28日 【ラオス】 寄生虫セミナー開催
- 12月1日 【マラウイ】 カントゥンファナ・ムワンザ、チベクングルベ村でプロジェクト活動を開始
- 12月7日 【ラオス】 武繁政昭氏をラオス事務所所長としてラオスに派遣
- 12月10日～20日 【マラウイ】 聖マリア病院国際事業部の浦部大策氏と広報室の相浦衛氏、ISAPH事務局の磯をマラウイに派遣
- 12月15日～19日 【ラオス】 MOU3終了時調査を実施（カンペータイ地区）
- 12月18日 【マラウイ】 中間レビューを実施
- 12月24日 【ラオス】 次期活動対象地区選定のため、他郡の情報収集を実施
- 1月23日 【ラオス】 外務省よりMOU3の1年間延長許可を得る
- 1月27日 【マラウイ】 エピングウェニ、カウエテカ村のボランティアがコンドウォレ村にて伝達講習会を実施



入会と寄付の
お願い

ISAPHの活動を発展させるために、一人でも多くのご入会、ご寄付をお待ちしております。

法人会員 年会費：30,000円

一般会員 年会費：3,000円

【振込先】

郵便振込 口座名 特定非営利活動法人ISAPH
口座番号 00180-6-279925

入会ご希望の方、ご寄付をお願いできる方は、ISAPH事務局までご連絡いただければ幸いです。

—— 特定非営利活動法人ISAPH ——

【福岡事務所】

〒813-0034

福岡県福岡市東区多の津4-5-13 スギヤマビル4階
TEL.092-621-8611

【東京事務所】

〒105-0004

東京都港区新橋3-5-2 新橋OWKビル3階
TEL.03-3593-0188 FAX.03-3593-0165

E-mail jimukyoku@isaph.jp

URL <http://isaph.jp/>

ISAPHの役員名簿

役 職	氏 名	備 考
理事長	小早川 隆敏	東京女子医科大学名誉教授
理 事	深見 保正	元福岡県企業管理者
理 事	浦部 大策	聖マリア病院国際事業部
理 事	江藤 秀顕	神山復生病院
監 事	竹之下 義弘	弁護士(東京六本木法律特許事務所)

【ISAPHニュースレター 第20号 編集スタッフ】

石原 潤子／磯 東一郎

社会医療法人
雪の聖母会



聖マリア病院

理事長：井手 義雄 病院長：島 弘志

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942-35-3322(代) FAX.0942-34-3115
URL <http://www.st-mary-med.or.jp>

- 厚生労働省臨床研修指定病院
- 厚生労働省歯科臨床研修施設
- 厚生労働省臨床修練病院
- 地域医療支援病院
- 福岡県救命救急センター
- 福岡県総合周産期母子医療センター
- 福岡県救急告示病院
- 福岡県地域災害拠点病院
- 福岡県エイズ治療拠点病院
- 福岡県肝疾患専門医療機関
- 福岡県災害派遣医療チーム指定医療機関
- 福岡県第二種感染症指定医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院
- 福岡県小児救急医療電話相談施設
- 福岡県児童虐待防止拠点病院
- 久留米広域小児救急医療支援施設
- A Baby-Friendly-Hospital-Initiative (赤ちゃんにやさしい病院) WHO・ユニセフ指定
- 自動車事故対策機構NASVA療護施設
- ISO 9001 認証施設
- ISO 15189 認定施設
- 日本医療機能評価機構認定施設 (一般病院 Ver.6.0)
- 日韓医療技術協力指定病院
- 久留米市病 (後) 児保育施設

※本ニュースレターの発行は、社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院にご協力をいただいています。